

世界平和同願会と入来町鎮魂碑

入来院貞子は夫重朝が定年で鹿児島に戻る1年前の平成7年7月、旧い家を建て直すために、当時の薩摩郡入来町に移住し、9月家の完成とともに、姑を老人ホームから引き取り、夫を待ちました。

その折、父山崎良順師から「九州にはまだ平和観音を祀っていないので、適当な所に祀って欲しい」と頼られました。良順師は妻志津子亡きあと急速に衰えて、新たにお贈りする先を自ら訪ることは出来なくなってきたのです。

夫を待ちながらも、当時の福田千年入来町長に父の願いを申し出ました。福田町長は「終戦後50年の記念事業にしよう」と久留主長利氏を会長に、観音碑設立の委員会を立ち上げて下さいました。但し、費用の300万円は町民の浄財を募ることになり、平成7年に戻って来た入来院重朝は、久留主会長と

ともに、全町の公民会を駆け巡って集金する日々となったのでした。

遺族会会員全員の献金、町長、前町長、商工会会長など町の有力者や、篤志の方々の高額な寄付も頂いて、無事完成。平成8年4月10日に除幕式という運びになりました。ところが、その2ヶ月前の2月13日に良順師の訃報が飛び込みました。老人ホームの食堂で食事中何か嚥下出来ずに詰まらせたということで、周りの誰も気付か

ぬままに亡くなったのでした。

貞子は渡辺恵進探題大僧正の揮毫になる、大きな岩に観音像を胎した立派な碑の完成を喜んでいた良順師が、除幕式を見たくて遷化したのかもしれないと



思うことでした。大圓が後継者になるということと、碑の完成という二つの大きな喜びを父の生前に与えることが出来たことは、貞子の喜びであります。

除幕式は、満開の桜花の中、町長以下大勢の参列者華々しく行われました。国分の自衛隊の音楽隊の演奏もあって、町始まって以来の除幕式でした。

同願会名誉会長の東伏見滋合治台下からの懇切な祝電も戴きました。入来院大圓とともに、世界平和同願会の代表として、諏訪から理事岩波秀一氏に参列して頂きました。

鹿児島を初めて訪れた岩波氏から、今後は大圓の後援者として、是非理事長を入来院重朝に引き受けてほしいとの要請がありました。しかしその時点では、まだ同願会は遠い存在に思えました。

結局、良順師の悲願である昭和寺存続、法嗣大圓の補助、良順師の昭和寺葬を行うには入来院重朝が会長を引き受けるしかないということが分かって、鹿児島という遠隔地ながら、出来るだけのことをしようということになりました。

軍恩会長として観音碑設立委員会会長の役目を積極的に果たされた久留主長利氏は、その後もまだ入来をよく知らない私たちをあちこち案内して下さいました。軍恩会の忘年会や旅行に参加させていただき、鹿屋の空軍基地や海軍記念日に佐世保や東郷元帥のお祭にも連れて行って頂きました。

脳梗塞などの重病からも立ち直り不死身かと思われた氏でしたが、平成18年2月12日帰らぬ人となりました。ハタハタと電動車で我が家によく見えていましたので、夢のように思えます。心からご冥福をお祈りいたします。



久留主会長と大里遺族会会長